

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野Ⅱ	小児看護学 援助論・演習	2	45	2年次	9月	江嶋詩織 高木佳寿美
授業概要 小児看護学概論で学習した内容をふまえて、疾病・障害をもつ子どもと家族の看護について学習する。また、小児看護における看護過程の展開について学習する。						
到達目標 1. 健康を障害された小児とその看護の概要を理解する。 2. 小児の健康の段階に応じた看護について理解する。 3. 小児の観察と症状に対応した看護の方法を理解する。 4. 小児看護に必要な看護技術を学ぶ。 5. 小児看護における看護過程の展開が理解できる。						
使用教材 テキスト ①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児看護学総論：医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論：医学書院 参考文献等 ①浅野みどり編：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図，医学書院。 ②山口桂子編：エビデンスに基づく小児看護ケア関連図，中央法規。 ③佐々木祥子編：写真でわかる小児看護技術アドバンス 小児看護に必要な臨床技術を中心に，インターメディカ。						
評価 筆記試験、レポート						
授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
6時間・3回	1. 疾病・障害をもつ子どもと家族の看護 1) 疾病・障害が小児と家族に与える影響 2) 小児の健康問題と看護 3) 子どもの日常生活にかかわる看護 4) 健康問題をもつ小児と家族の看護 2. 子どもの状況に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護					講義
6時間・3回	3. 小児における疾病の経過と看護 1) 急性期ある小児と家族の看護 2) 周手術期にある小児と家族の看護 3) 慢性期にある小児と家族の看護 4) 終末期にある小児と家族の看護					講義

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野Ⅱ	小児看護学 援助論・演習	2	45	2年次	9月	江嶋詩織 高木佳寿美
時間・回数	授業内容					方法
6時間・3回	4.子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン (3) 身体計測 2) 身体的アセスメント					講義 演習
4時間・2回	5.障害のある小児と家族の看護 1) 障害のとらえ方 2) 障害のある小児と家族の特徴 3) 障害のある小児と家族の社会的支援					講義
4時間・2回	6.症状を示す小児の看護 1) 不機嫌 2) 啼泣 3) 呼吸困難、チアノーゼ 4) ショック、意識障害 5) けいれん 6) 発熱 7) 嘔吐、下痢、便秘 8) 脱水 9) 浮腫 10) 出血 11) 貧血 12) 発疹 13) 黄疸					講義 演習
4時間・2回	7.検査・処置を受ける小児の看護 1) 検査・処置 (1) 子どもにとっての検査・処置、看護の実際 2) 薬物動態と薬用量の決定 3) 検査・処置各論 (与薬、輸液管理、抑制、検体採取、罨法、清潔、経管栄養、 排泄、呼吸症状の緩和、蘇生法等)					講義 演習
14時間・7回	8.看護過程の展開「川崎病の患児の看護」 1) 病態・治療の理解 2) 小児のアセスメントの視点					講義 演習（グループワーク）
1時間・1回	筆記試験					
備考						